「かわいそう?」

「いま、幸せですか?」

これは以前、「ハーフ」と呼ばれる立場から来る経験を話したときに聞かれたことです。この質問は「子供が〝かわいそう〟だから」という理由で結婚を反対されている人からのものでした。国際結婚から生まれた子供は色々な悩みを抱えるから「かわいそう」、それがこの発言の根拠なのかもしれません。

私は物事を考えるのが好きな性格のため、色々なことを考えます。高校生の頃、自分はナニ人か?」という、まるで「出口のない迷路」のような疑問について考えていたときには「どうして、こんなことで考えなければいけないのか」「もしかしたら考えているのは自分だけではないのか」と思ったことがあります。

しかし、色々と経験を積んでいく中で、誰もがその内容は違うけれど何らかの悩みを抱えていることがわかりました。「自分はナニ人か?」ということで悩んでいた友人は周りにはいませんでしたが、それぞれ自分が向き合っている現実に対処するために様々なことで悩んでいました。

人はそれぞれの与えられた現実と向き合って生きていると思います。「ハーフ」と呼ばれるというのも、ひとつの現実です。例えば「自分はナニ人か?」という問題は、それを考えた事のない人には大変な悩みに思えるでしょうが、考える機会が与えられ、そして自分なりの結論に至った人には「思春期の悩み」のように、人生の通過点として受け止められる、自然な悩みとなると思います。

「子供が〝かわいそう〟だから結婚は反対だ」と周囲に言われ、そしてその意見に同調して結婚を諦める人もいるかもしれません。結婚しても子供を産まない人もいるかもしれません。しかし、もしそれで子供を産み育てないのであれば、それは「ハーフ」と呼ばれている人を、その〝存在を否定〟することになっていると思います。「〝かわいそう〟だから結婚しない・子供を産まない」と考える人には、その考えにこそ問題があるのだと、早く気づいてもらいたいものです。

二〇〇五年十月十日

岡村　兵衛

Copyright(C) 2005　Hyoue Okamura　All Rights Reserved.　www.kreuzungsstelle.com